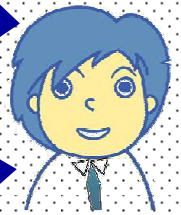




ねっどわーく



H24.08.06 No.32

■ 菊池省三先生子ども熟議セミナーに参加して

8月2日(木)、東京の教育同人社において、菊池省三先生のセミナーに参加させていただきました。午後からのセミナーでしたが、菊池先生の話術にはまり、あっという間の時間でした。ちゃんとセミナーに行ってきたぞという報告もかねて、感じた点を述べたいと思います

実にたくさん感銘を受けましたが、自分としては特に次の2点が心に残りました。

まず1点目。ほめるという事の大切さ。ほめる際の理由付けの大切さ。「ほめ言葉のシャワー」ですね。ここに教師が学級を経営して行く上でのスピリットが出るんだなあということです。

菊池先生の学級経営の土台は、「ほめる。ほめられる。」から「やる気」へ、そして、さらに「ほめ合う」にあると主張しています。

確かに、そうした承認欲求に飢えている子どもたちであればこそ、大事にしたいことだと思いました。授業中に、単に「〇〇さん。」とかけるだけでなく、「自分の意見に理由付けがしっかりしている〇〇さん」などというように、いつでもほめる、ほめ合う雰囲気が大切であることを学びました。あの手この手で、ほめ合う→やる気につながっていくのでしょうか。

2点目。教科のねらいもあるけれど、それと同じくらいの比率で学習規律的視点(学級経営的視点になるのでしょうか)を持ちながら、子どもたちとの授業を行っているなあということです。すみません、うまく言えません。「言葉を整える、調える」ということを大事にしてらっしゃいました。日常的な授業において、その授業のねらいとともに、育てたい子ども像を明確にしているとも言いましょうか。そんな感じを受けたところです。

その他にも、「こそ論」や「クッション言葉」といったところも興味深かったところです。

教師という仕事にプロ意識を持って、もかいていらっしゃる(つまり、今の自分はどうか?常に自己否定しながら進化していくことを大事にしている)点、本当に勉強になりました。

